

フルックスグループの「惣菜のわかる八百屋塾」

食農業界の人材を育成

「旬八青果店」のアグリゲート・左今社長が講演

惣菜製造の三晃などを中心とするフルックスグループ(黒田久一代表、本部 奈良県大和郡山市)では、第69回「惣菜のわかる八百屋塾」を開催した。ゲスト講師は都市型青果店「旬八青果店」を展開するアグリゲート(東京都品川区)の左今克憲社長。青果店運営や野菜メインの弁当の製造・販売などのほか、社内向け研修も一般に開放。「食農業界に興味のある人材を育成し、活性化していきたい」と強調した。



「食」と「農」が連携するための人材育成を実践する左今氏

2009年創業のアグリゲートでは、13年から実店舗を都内に展開(直営14店、フランチャイズ1店)。外観にとらわれずに新鮮でおいしい旬の食材を仕入れ、スタツプが試食したうえで対面販売し、適正価格で提供。ベンチャーではあるものの、昔ながらの青果店のよさを前面にビジネスベースに乗せている。

また、規格外品も活用しながら弁当、惣菜、サラダ、スムージー、ドリンクなどをキッチン(2店舗)で製造。グループの青果店での販売や、周辺のおフィスへの納入も行っている。

「仕入卸事業では、茨城県つくばみらい市の自社農場で生産ノウハウを習得。その体験、情報を、産地との商談における交渉やアドバイス、課題解決に活用する。産地開発した食材は独自物流で輸送し、自社店舗のほか、学校給食、飲食店などに卸している。ただし市場流通は十分に活用しており、常に最適な商流・物流ルートを選択。また産直商材でもおしにくいものは返品、値下げ販売、または加工に回し、産地にフィードバックして改善を促す。

そのほか「プラットフォーム事業」では、自治体の依頼による産地へのコンサルティングおよび都市部でのテスト販売。教育・人材育成の「旬八大学」では、社内教育を一般に有料で開放。「八百屋の野菜塾」「八百屋の立上げ講座」「地域商社講座」などを提供している。左今氏は「食農」という言葉について、「食は食、農は農(で孤立する)ではなく、互いを見ればさらに広がる」としたうえで、「食農業界でビジネスマインドを持つ人材がもっと育ってくれば」とした。

「ウエグマンズ」など海外のスーパーの最新情報と、好評なフルックスグループの青果直販事業などについて解説。終了後には八百屋塾恒例の、惣菜の新メニューの試食が行われ、「野菜だらけ! みつ豆仕立て」「ズッキーニと生ハム」のサラダ」などが提供された。なおフルックスグループでは、県内著名シェフが奈良の食材を利用する「シェフェスタ」にも協力。県産青果物の拡大を図っていく。



毎回10種類以上の新メニューの試食を提供